

環境報告書

2011



八王子市
北野下水処理場
北野衛生処理センター

目 次

	ページ
私たちの取組み・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第1章 北野下水処理場 事業概要	
1 施設のあらまし・・・・・・・・	3
2 環境負荷・・・・・・・・	8
3 環境対策・・・・・・・・	18
第2章 北野衛生処理センター 事業概要	
1 施設のあらまし・・・・・・・・	25
2 環境負荷・・・・・・・・	29
3 環境対策・・・・・・・・	33
第3章 私たちの環境配慮の取組み	
1 環境保全への取組み・・・・・・・・	39
2 環境負荷を減らす取組み・・・・・・・・	40
3 私たちの組織・・・・・・・・	41
4 安全衛生などの取組み・・・・・・・・	42
第4章 コミュニケーション	
1 環境情報の公開・・・・・・・・	45
2 寄せられた意見・要望・・・・・・・・	45
3 施設の見学・・・・・・・・	46
4 環境教育・・・・・・・・	47
5 社会的活動・・・・・・・・	48
用語解説 ・・・・・・・・	49
案内図、問い合わせ先 ・・・・・・・・	背表紙

表紙写真：左上 北野下水処理場の全景（合流施設）
 右上 北野衛生処理センター（建物）
 下 植栽

私たちの取組み

本市は、市民・事業者の皆さんとの協働による環境保全施策の推進、水やみどりの保全、ごみ減量や資源化の促進など、「循環型都市八王子」の構築を目指しております。

私たちの施設では、市民の皆さんの暮らしの中から発生する生活排水等を処理しており、市民生活にとって重要な公共用水域の保全や公衆衛生の向上に寄与しています。

北野下水処理場では、環境への負荷を少なくするため、標準活性汚泥法(巻末に用語解説)による処理を行い、処理水は浅川及び山田川に放流し自然に還元しています。

また、処理の過程で発生する汚泥は焼却処理を行い、焼却灰はセメント材料として再利用することにより資源を循環させるお手伝いをしています。

北野衛生処理センターでは、し尿や浄化槽汚泥等の汚水を受け入れ処理しており、処理水は、環境への負荷を少なくするため、オゾン処理をはじめとする高度処理を行い、浅川に放流し自然に還元しています。また、処理の過程で発生する汚泥は、北野下水処理場で焼却処理を行っています。

このように、「市民の皆さんの快適な生活環境を守る」ことと、「河川環境保全による良好な都市環境づくり」という役割を担っています。

昨年3月には、市民・事業者と協働し、本市の持つ自然の水循環と水道や下水道などの人工の水循環を、調和の取れた持続可能で健全な水循環系に再生し、水の恩恵を将来の子どもたちに継承するため、「環境」「利水」「治水」という3つの視点からとらえた「八王子市水循環計画」を策定しました。

これからの世代に鮎が泳ぎ、子どもたちが安心して泳ぐことができる川や豊かなみどりの自然環境を残すことが私たちの重要な責務であり、今後も、より良好で安定した処理水の自然への還元を図るとともに、環境への負荷低減を目指した運転管理に務めてまいります。

平成23年9月1日

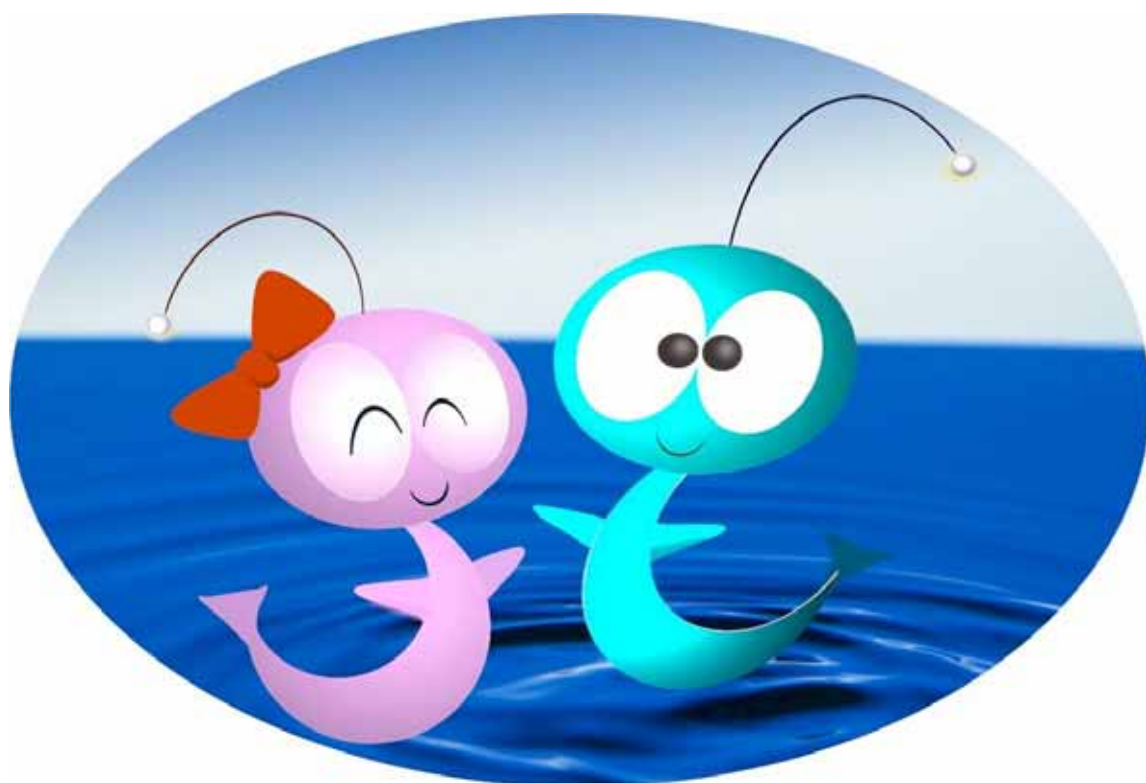
八王子市水循環部水再生課

課長 **平賀 源重郎**

報告する期間

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

第1章 北野下水処理場 事業概要



クリア

クリン

八王子市 下水道マスコット

1 施設のあらまし

本処理場は、JR八王子駅を中心とした地域の下水処理を目的とし、昭和40年から合流式処理場として築造工事に着手し、昭和44年7月から供用開始しました。さらに、昭和49年には分流式処理場の築造工事に着手し、昭和55年7月から供用開始しました。

現在、処理区の下水道整備普及率は100%に達しており、処理施設については、沈殿した下水を微生物の働きを利用して有機分を分解しBOD（生物化学的酸素要求量）、SS（浮遊物質）等除去する施設整備が完了しています。本処理場の特徴は、合流改善施設として雨水滞水池を所有していることです。

運転、保守業務については民間委託しており、管理、設備営繕は市の職員が行っています。

敷地面積

	敷地面積
本場	59,049 m ²
分場	20,422 m ²
計	79,471 m ²

計画処理区域面積及び計画処理人口

下水排除方式	処理区域面積 (ha)	処理人口 (人)	処理開始年月日
合流式	354.0	45,900	昭和44年7月
分流式	615.0	66,800	昭和55年7月
計	969.0	112,700	-

水処理施設

処理能力及び処理方式

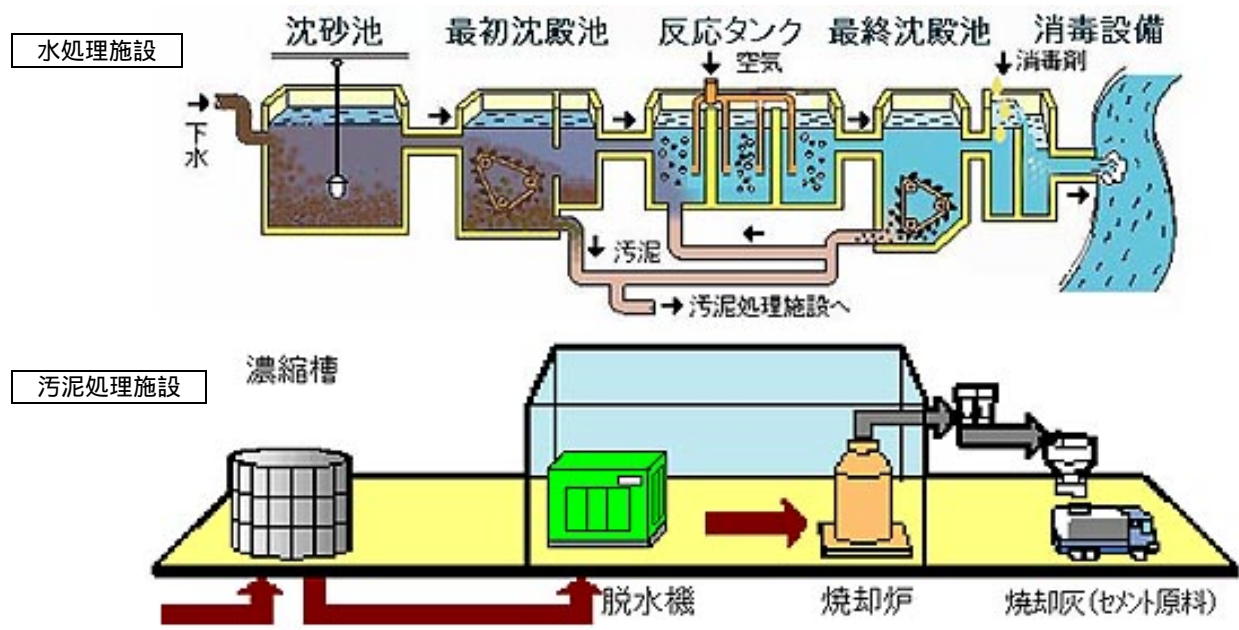
下水排除方式	晴天時最大 (m ³ /日)	雨天時最大 (m ³ /日)	処理方式
合流式	31,300	397,526	標準活性汚泥法
分流式	41,300	41,300	標準活性汚泥法
計	72,600	438,826	-

汚泥処理施設

処理能力及び処理方法

設備名	処理能力	構造
脱水設備	60 m ³ /時間 (30 m ³ /時間 × 2基)	遠心脱水機
焼却設備	120 t/日 (60 t/日 × 2基)	立形流動焼却炉

フローシート



【水処理施設】

沈砂池



流れてきた下水は、この池で大きなゴミや土砂を取り除きます。取り除いたものは、沈砂¹、し渣²として搬出されます。

汚水ポンプ・雨水ポンプ



沈砂池の下水は、汚水ポンプで最初沈殿池へ送られます。また、合流施設においては雨天時に下水と一緒に流れてきた多量の雨水を、雨水ポンプで雨水滞水池に送ります。

雨水滞水池(合流施設)



フローシート(P4 参照)には記載していませんが、雨天時に下水と一緒に流れてきた雨水で川を汚さないために、一時的に汚水を貯めておく池です。貯められた汚水は、雨の影響が少なくなったら、最初沈殿池に送ります。

- 1 沈砂：流入下水の中には、砂利・砂のほかさまざまな大きな固形物が混ざっています。沈砂池で沈んだ固形物を「沈砂」といい、水洗浄したあと廃棄物として場外に搬出します。
- 2 し渣：沈砂池で沈まなかった固形分(トイレットペーパー、ビニール片など)を機械で集めたものを「し渣」といいます。廃棄物として場外に搬出しています。

最初沈殿池



この池で、下水を 2 時間くらいかけてゆっくり流します。その間に細かい汚れ(ドロ)を沈殿・分離させ、池底に沈んだドロは汚泥処理施設へ送ります。

反応タンク(エアレーションタンク)



ここでは、下水の中に活性汚泥(巻末に用語解説)(微生物を含んだドロ)を入れ、空気を吹き込みながら 6 時間から 8 時間ほどかきまぜます。この間に、溶けている汚れは微生物の栄養として吸収され、水や炭酸ガスなどに分解されます。繁殖した微生物の周りには、細かい浮遊物が付着して沈殿しやすい塊(フロック)になります。

最終沈殿池



この池で 2 時間ほどかけてゆっくり流す間に、反応タンクでできた塊(フロック)を沈殿させ、上澄みのきれいな水だけ消毒設備に送ります。また、池底に沈んだフロックは、反応タンクと最初沈殿池に送ります。

消毒設備(塩素混和池)



この池できれいになった水を、次亜塩素酸ナトリウム溶液という薬品で消毒してから川に放流します。

放流施設(浅川)



川への放流口です。川が増水した時に川の水が処理場へ逆流するのを防ぐため、開閉ゲートを有しています。

【汚泥処理施設】

濃縮槽



最初沈殿池から送られてきたドロは、この槽でゆっくり沈殿させ、濃度の高いドロにします。濃くなったドロは、遠心脱水機に送ります。

遠心脱水機



濃くなったドロに高分子凝集剤という薬品を混ぜ、この機械で水分を取りドロの固まり(脱水汚泥)を作ります。脱水汚泥は、汚泥焼却炉に送ります。

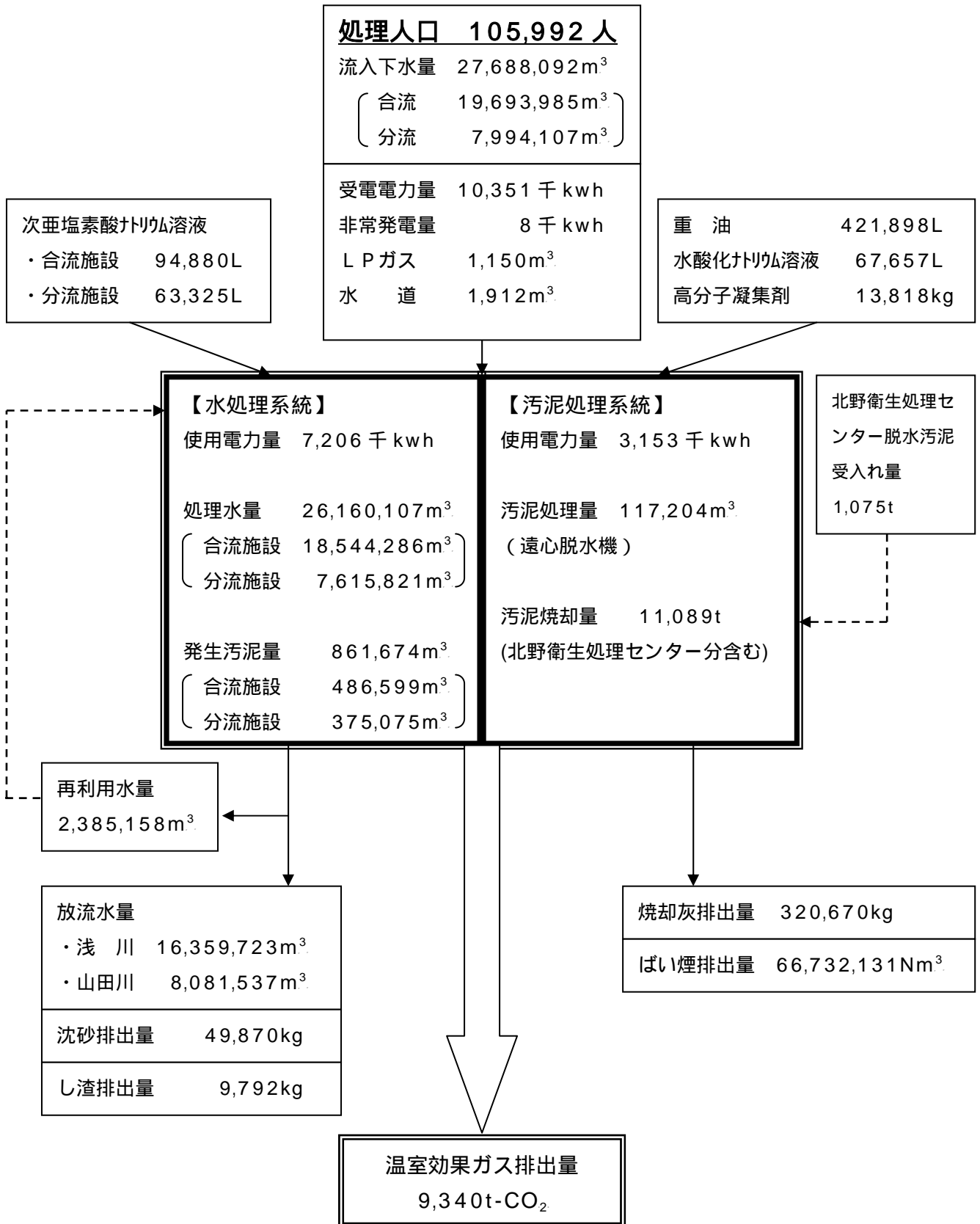
汚泥焼却炉



脱水汚泥を850度以上の高温で焼却し灰にします。焼却灰はセメント原料として再利用しています。

2 環境負荷

(1) 物質収支

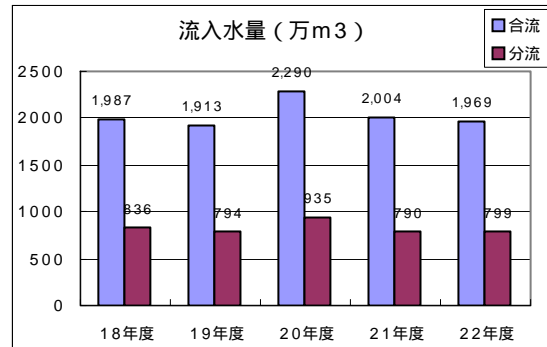


(2) 平成18年度から22年度の推移

【水処理系統】

流入下水道量変化

北野下水処理場に流入した下水道量を示します。

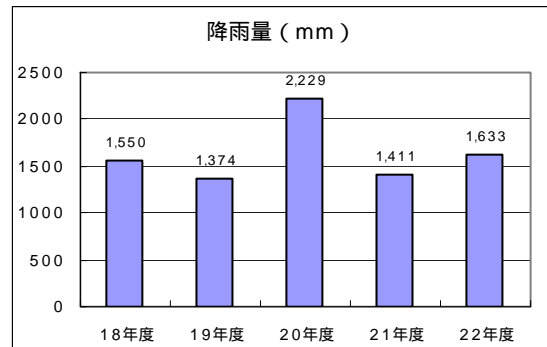


《合流...汚水+雨水+場内排水+地下水 分流...汚水+場内排水》

降雨量変化

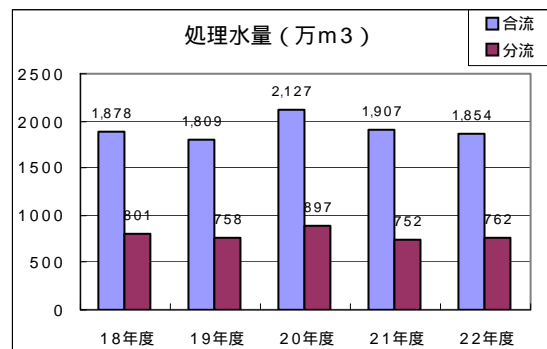
八王子市の降雨量を示します。

八王子市天気相談所データ



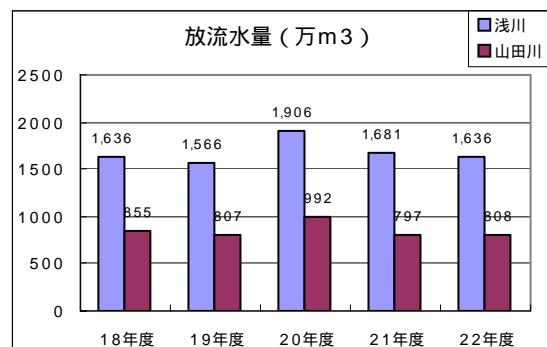
処理水量変化

反応タンクで処理した水量を示します。

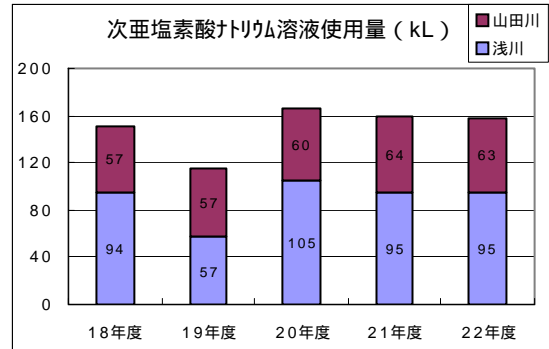


放流量変化

河川へ放流した水量を示します。

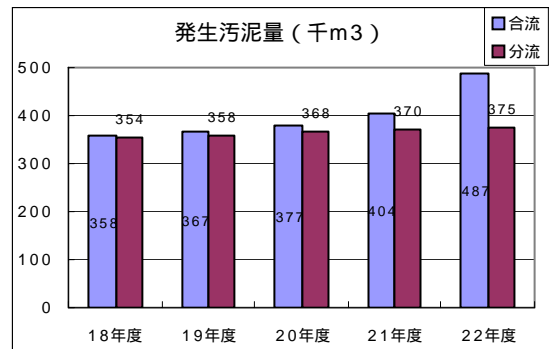


次亜塩素酸ナトリウム溶液使用量変化
 処理水の滅菌用として使用しています。

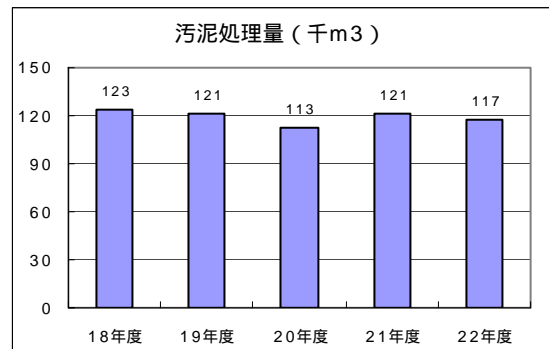


【汚泥処理系統】

発生汚泥量変化
 汚泥濃縮槽に投入した汚泥量を示します。

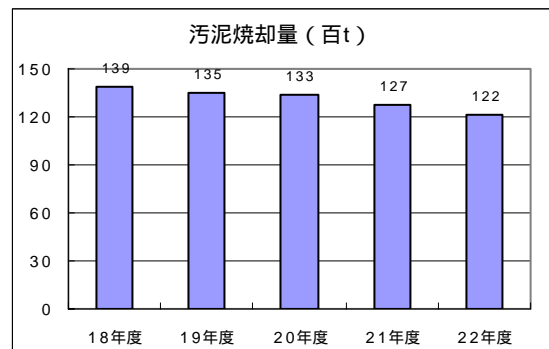


汚泥処理量変化
 遠心脱水機で処理した汚泥量を示します。



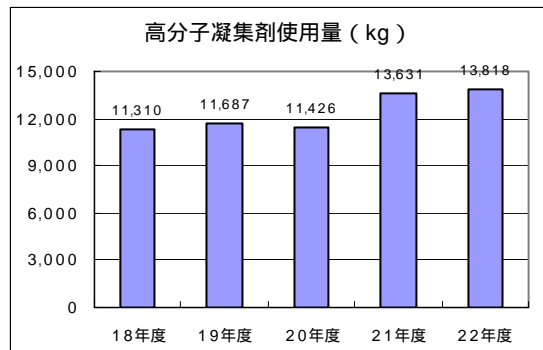
汚泥焼却量変化
 焼却炉で焼却した脱水汚泥量を示します。

北野衛生処理センター汚泥分含む



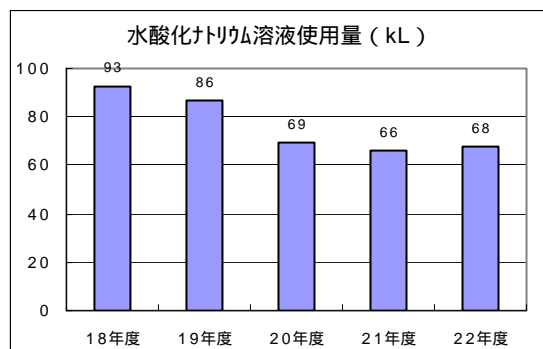
高分子凝集剤使用量変化

遠心脱水機で効率よく汚泥を脱水するために使用しています。



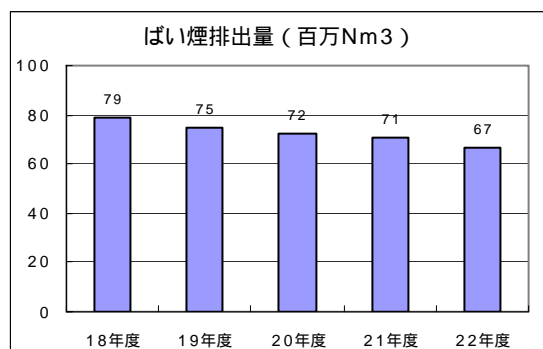
水酸化ナトリウム溶液使用量変化

焼却炉脱硫装置のpH調整、排ガス中の硫酸化物³の除去のために使用しています。



ばい煙排出量変化

燃料その他の物の燃焼に伴い発生する硫酸化物、窒素酸化物⁴、ばいじん⁵及び有害物質の総称を示します。



- 3 硫酸化物 (SO_x): 二酸化硫黄 (SO₂)、三酸化硫黄 (SO₃) などの総称です。脱水汚泥に含まれている硫黄分は、燃焼することによって酸化され硫酸化物となり、酸性雨の原因となっています。
- 4 窒素酸化物 (NO_x): 一酸化窒素 (NO)、二酸化窒素 (NO₂) の総称です。脱水汚泥に含まれている窒素分は、燃焼することによって酸化され窒素酸化物となり、酸性雨、光化学スモッグの原因となっています。
- 5 ばいじん: 脱水汚泥の焼却に伴い発生する灰には、粒径が小さく飛散性が高い飛灰があります。この飛灰をばいじんといい、集塵機によって捕集されます。

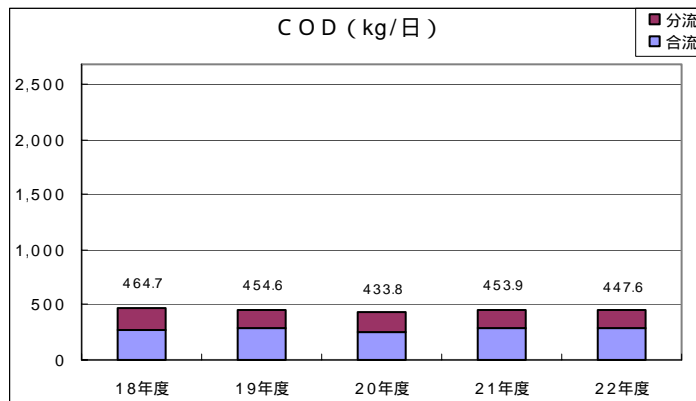
(3) 総量規制

東京湾の富栄養化対策(巻末に用語解説)として、東京都はCOD、窒素、リンの3項目について事業所ごとに1日あたりの排出量を規制しています。

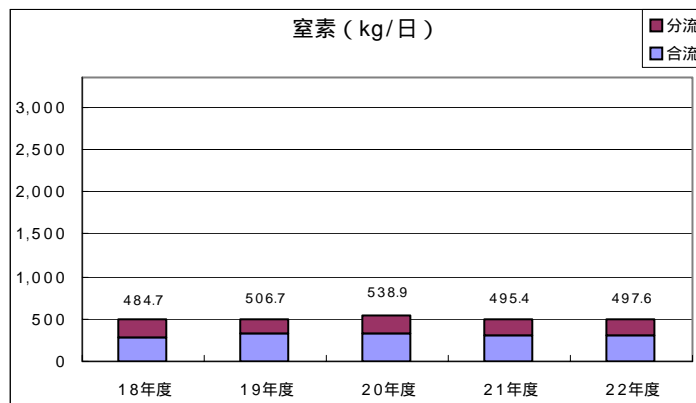
北野下水処理場においても、規制の対象事業所であり、排出水のCOD、窒素、リンについて自動計測器で24時間連続測定を行っています。

平成22年度の日平均排出量は、COD:447.6kg/日 窒素:497.6kg/日 リン:57.58kg/日でした。

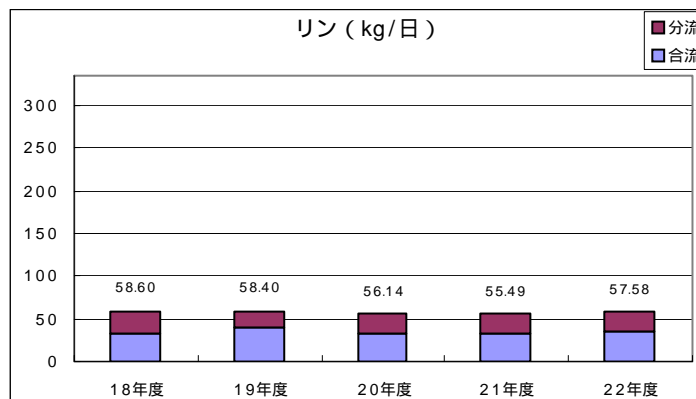
平成18年度から平成22年度の推移



《規制値 2682.0kg/日》



《規制値 3352.5kg/日》



《規制値 335.25kg/日》

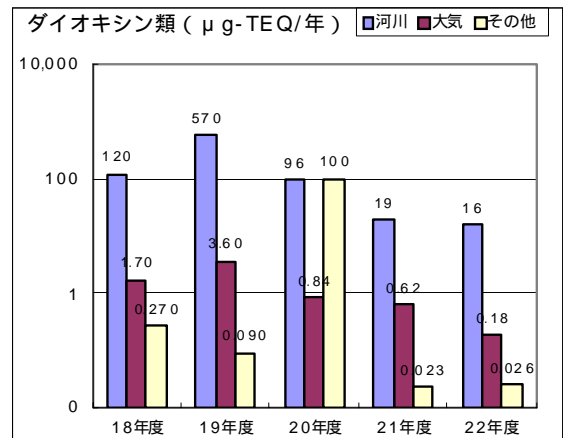
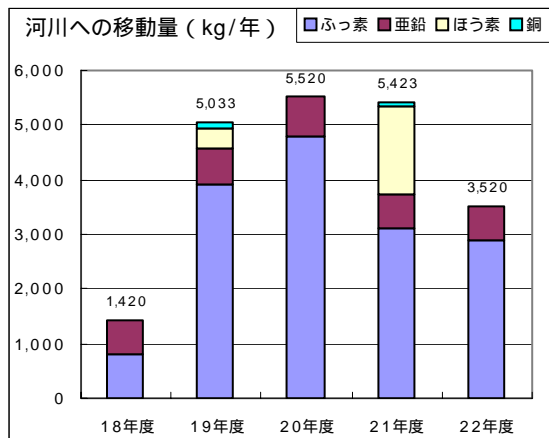
(4) P R T R 制度 (化学物質排出移動量届出制度)

「特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律」(化管法)によって定められた化学物質(354物質)を年間1t以上取り扱う事業所は、河川・大気・土壌・その他(材料・製品等)への移動量を把握し、環境省へ報告する義務が課せられています。

北野下水処理場においては、取り扱いの有無にかかわらず、処理水からは排除基準にある29物質⁶及びダイオキシン類⁷、焼却炉からは、ばい煙及び焼却灰のダイオキシン類の報告が義務付けられています。

平成22年度における処理水から河川へ排出された物質は、亜鉛、フッ素、ホウ素、銅の4物質であり、その排出量は、亜鉛:620kg/年、フッ素:2,900kg/年、ホウ素:0kg/年、銅:0kg/年でした。ダイオキシン類については、放流水:16µg-TEQ⁸/年、ばい煙:0.18µg-TEQ/年、焼却灰:0.026µg-TEQ/年でした。

平成18年度から22年度の推移



6 29物質: 亜鉛、EPN(有機リン)、カドミウム、クロム、六価クロム、シマジン、シアン、チオベンカルブ、四塩化炭素、1,2-ジクロロメタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,3-ジクロロプロペン、ジクロロメタン、水銀、セレン、テトラクロロエチレン、チウラム、銅、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ベンゼン、ほう素、PCB、マンガン

7 ダイオキシン類: ダイオキシン類は塩素系の化合物で、ポリ塩化ジベンゾ-p-ジオキシン、ポリ塩化ジベンゾフラン、コプラナPCBの総称です。塩素の数・位置によりそれぞれ75種、135種、13種の異性体(同じ種類で、性質などが異なる物質)があります。

8 ダイオキシン類: 毒性の評価を表すときにTEQ(毒性等量)を用います。TEQ(毒性等量)とは、ダイオキシン類の中でも最も毒性の強い2,3,7,8-TCDDの毒性を1として他のダイオキシン類の強さを換算した単位のことです。(µg-マイクログラム-100万分の1グラム)

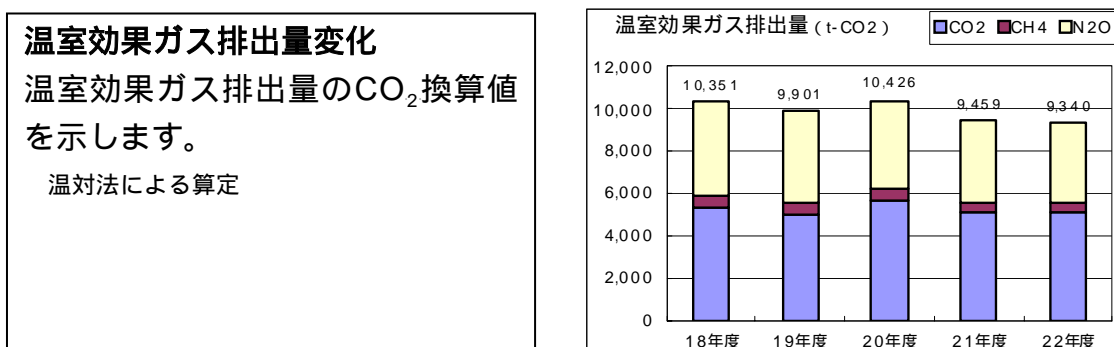
(5) 地球温暖化対策

北野下水処理場は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」(温対法)で定められた6種類の温室効果ガス(巻末に用語解説)排出量を削減するため、省エネルギーの推進をするとともに、汚泥の高温化焼却(炉床温度850 以上)によって汚泥焼却から発生するN₂O(一酸化二窒素)を抑制しています。

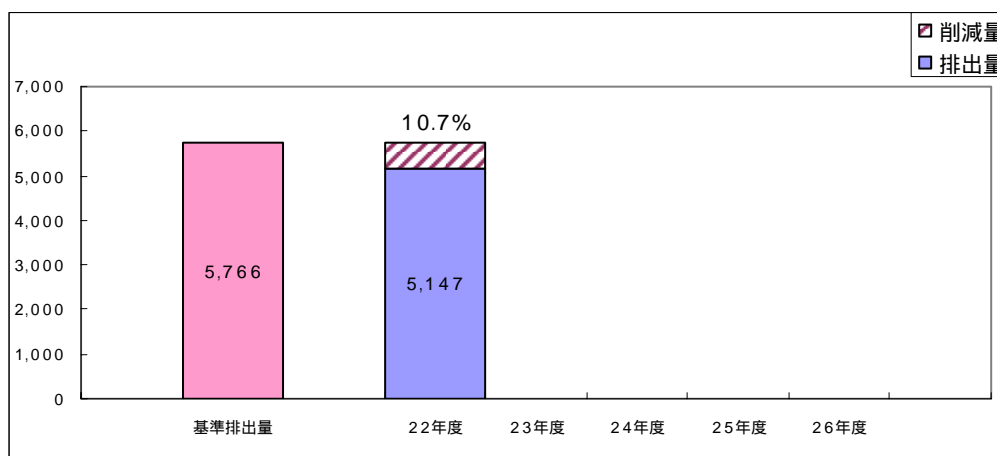
また、平成22年度から平成26年度までの5年間は、「総量削減義務と排出量取引制度」(東京都)において、八王子市北野事業所⁹を形成する1事業場として、エネルギー起源CO₂を平均6%(基準排出量比)以上の削減をしていきます。

平成22年度の温室効果ガス排出量は、二酸化炭素(CO₂):5,124t-CO₂、メタン(CH₄):486t-CO₂、一酸化二窒素(N₂O):3,730t-CO₂、総量:9,340t-CO₂、高温化焼却によるN₂O抑制量:3,417t-CO₂となっています。なお、北野下水処理場の総量削減義務におけるエネルギー起源CO₂の削減率は10.7%となり、目標を達成しています。

平成18年度から22年度の推移



総量削減義務の履行状況(北野下水処理場分)



⁹ 八王子市北野事業所：北野下水処理場、北野清掃工場、北野衛生処理センター、北野衛生事業所、北野余熱利用センターの5事業場で形成する事業所のこと。

(6) 省エネルギーの推進

北野下水処理場は、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」(省エネ法)の規定に基づくエネルギー管理指定工場¹⁰に指定されています。

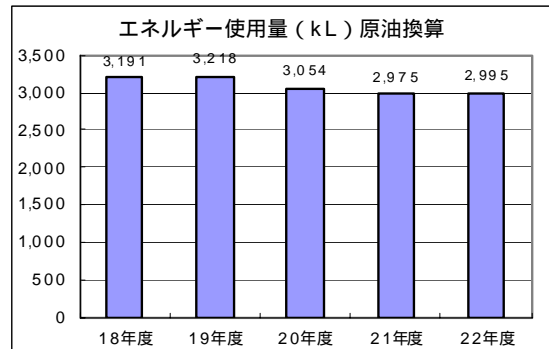
当処理場では、効率的な水処理管理を行うことによって微生物から発生するドロ(余剰汚泥)の抑制、及び遠心脱水機の更新(平成14年度)によって脱水ケーキ含水率の改善を行うことで重油使用量を削減しています。さらに機器運転の効率化、省エネ機器の導入及び昼休み中の消灯などにより節電を実施し、エネルギー使用に係る原単位¹¹を年1%以上改善できるように努めています。

平成22年度のエネルギー使用量(原油換算)は2,995kL/年、エネルギー使用に係る原単位は1.087kL/万m³でした。

平成18年度から22年度の推移

エネルギー使用量変化(原油換算)

北野下水処理場で使用したエネルギーを原油換算したものを示します。

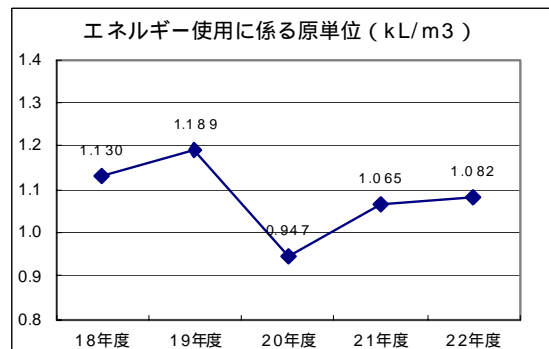


エネルギー使用量(原油換算)は20kL増加しました。

原単位変化

エネルギー使用量を流入水量で除した値を示します。

$$\text{エネルギー(kL)} \div \text{流入水量(万m}^3\text{)}$$



エネルギー使用に係る原単位は、0.017kL/万m³悪化しました。

- 10 第一種エネルギー管理指定工場：エネルギー使用量が3,000kL以上の事業所
第二種エネルギー管理指定工場：エネルギー使用量が1,500kL以上3,000kL未満の事業所

- 11 エネルギー使用に係る原単位：エネルギー使用量を流入水量で除した値を示します。

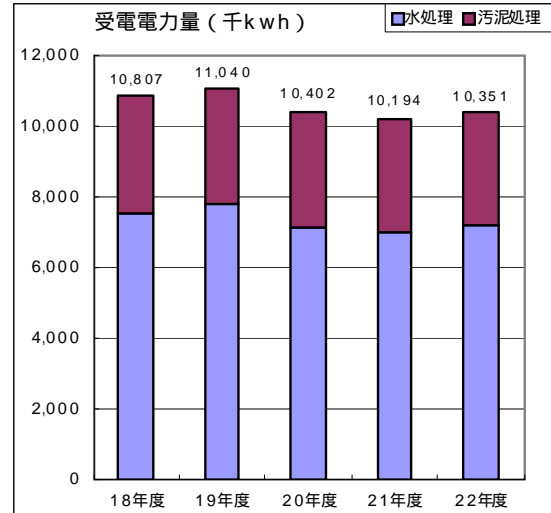
$$\langle \text{エネルギー使用量} \div \text{流入水量(単位 kL/m}^3\text{)} \rangle$$

受電電力量変化

北野下水処理場の受電電力量を示します。



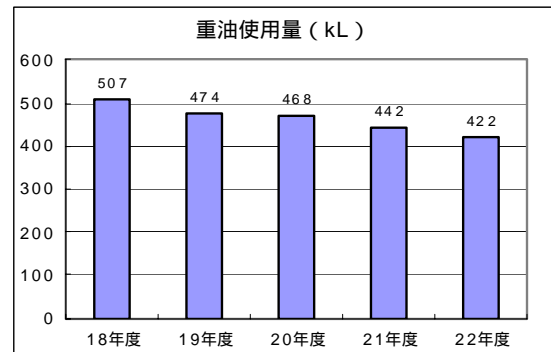
(66,000V 特別高圧受電設備)



非常発電量 8,250kw

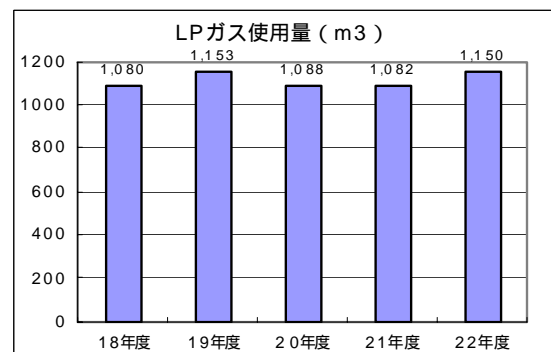
重油使用量変化

汚泥焼却炉、非常用発電機で使用しています。



LPガス使用量変化

給湯設備で使用しています。

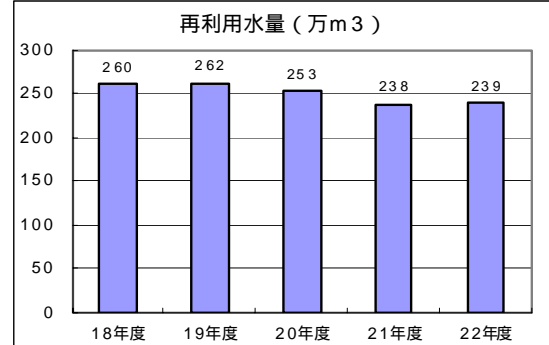


(7) 資源の有効利用

北野下水処理場では、処理水を機器の冷却などに再利用しています。また、焼却炉で発生した焼却灰は、セメント原料として有効利用しています。

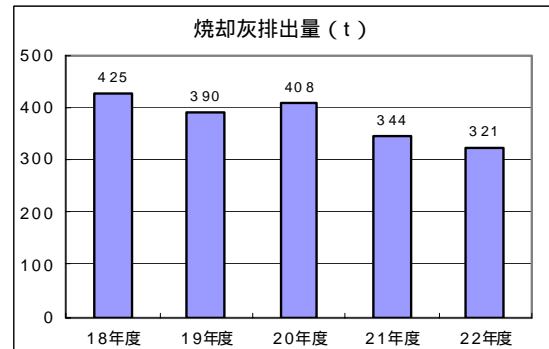
再利用水量変化

処理水を砂ろ過設備でろ過してから、機器の冷却水などに再利用しています。



焼却灰排出量変化

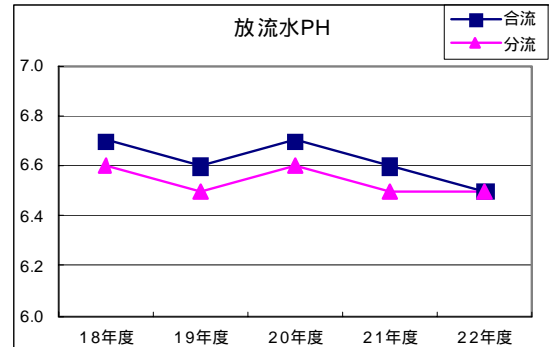
適切な運搬・処理方法でセメント原料に有効利用しています。



3 環境対策

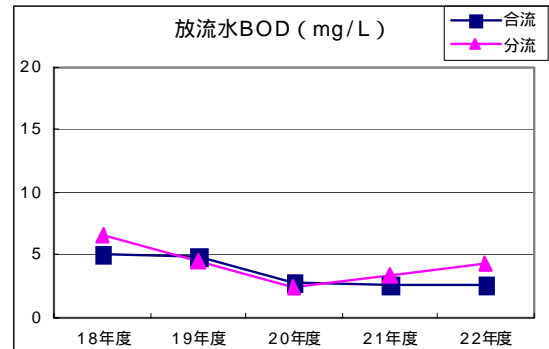
(1) 河川環境対策 放流水質

pH (水素イオン濃度)
酸性・アルカリ性を示します。



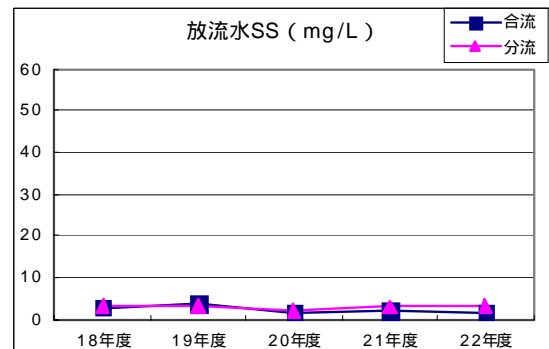
《水質汚濁防止法の基準値 pH 5.8 以上 8.6 以下》

BOD(生物化学的酸素要求量)
処理水中の有機物の量(微生物によって反応する量)を示します。



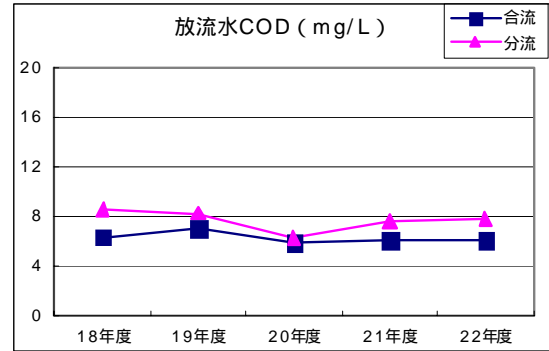
《下水道法の基準値 20mg/L》

SS (浮遊物質)
処理水中の濁りの程度を示します。

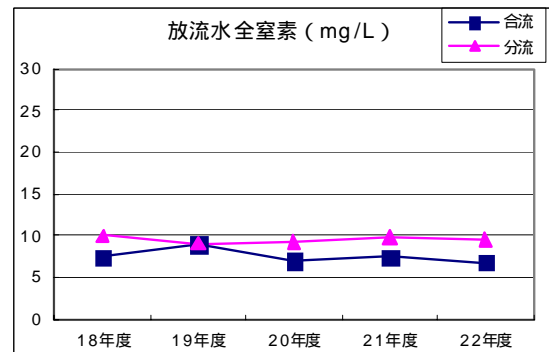


《東京都環境確保条例の基準値 60mg/L》

COD (化学的酸素要求量)
 処理水中の有機物の量 (化学的に反応する量) を示します。

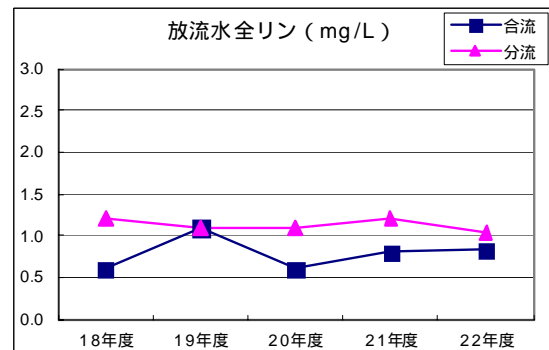


全窒素
 処理水中の窒素化合物の値を示します。



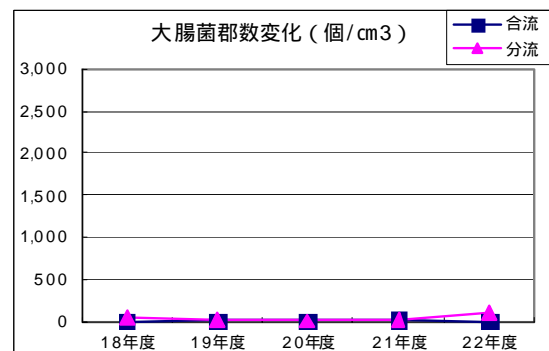
《東京都環境確保条例の基準値 30mg/L》

全リン
 処理水中のリン化合物の値を示します。



《東京都環境確保条例の基準値 3.0mg/L》

大腸菌群数
 処理水の滅菌状態を示します。



《下水道法の基準値 3,000 個/cm³以下》

北野下水処理場からの放流水に対して、条例等により様々な規制値が設けられています。

放流水水質データ（その1）

項目		合流			分流			基準値	
		平均	最大	最少	平均	最大	最少		
生活環境項目	水素イオン濃度（pH値）	6.5	6.9	6.0	6.5	7.0	6.2	5.8以上 8.6以下	
	BOD生物学的酸素要求量（mg/）	2.6	5.6	1.0	4.3	17	1.2	20	
	COD化学的酸素要求量（mg/）	6.0	7.9	3.8	7.8	14	5.1		
	SS浮遊物質（mg/）	1.8	6.4	0.4	3.2	12	0.8	60	
	ノルマルヘキサン抽出物質含有量（mg/）	鉱油類	< 5	< 5	< 5	< 5	< 5	< 5	5
		動植物油類	< 5	< 5	< 5	< 5	< 5	< 5	30
	フェノール類含有量（mg/）	< 0.5	< 0.5	< 0.5	< 0.5	< 0.5	< 0.5	5	
	銅含有量（mg/）	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	3	
	亜鉛含有量（mg/）	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	2	
	溶解性鉄含有量（mg/）	< 0.5	< 0.5	< 0.5	< 0.5	< 0.5	< 0.5	10	
	溶解性マンガン含有量（mg/）	< 0.5	< 0.5	< 0.5	< 0.5	< 0.5	< 0.5	10	
	クロム含有量（mg/）	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	2	
	大腸菌群数（個/cm ³ ）	2	54	0	94	0	2300	3000	
	全窒素（mg/）	7.8	11.8	4.4	10.5	18.6	6.3	30	
全リン（mg/）	0.8	2.1	0.2	1.2	3.6	0.3	3.0		
健康項目	カドミウム及びその化合物（mg/）	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	0.1	
	シアン化合物（mg/）	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	1	
	有機リン化合物（mg/）	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	1	
	鉛及びその化合物（mg/）	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	0.1	
	六価クロム及びその化合物（mg/）	< 0.05	< 0.05	< 0.05	< 0.05	< 0.05	< 0.05	0.5	
	ヒ素及びその化合物（mg/）	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	0.1	
	総水銀（mg/）	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.005	

平成23年2月22日、分流施設の放流水において全リンが3.6mg/ となり、基準値を超過しました。これは、電気工作物点検のための停電による環境変化や大雨に伴う流入水の増加などの複数の要因が重なりあったことが原因と考えられます。今後は、電気工作物点検スケジュールの見直し等を行い、適切な水質管理に努めてまいります。

放流水水質データ（その2）

項目	合流			分流			基準値	
	平均	最大	最少	平均	最大	最少		
健康項目	アルキル水銀化合物 (mg/)	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	
	ポリ塩化ビフェニル (mg/)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.003
	トリクロロエチレン (mg/)	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03	<0.03	0.3
	テトラクロロエチレン (mg/)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.1
	ジクロロエタン (mg/)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.2
	四塩化炭素 (mg/)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02
	1.2-ジクロロエタン (mg/)	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04
	1.1-ジクロロエタン (mg/)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.2
	シス1.2-ジクロロエチレン (mg/)	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	0.4
	1.1.1-トリクロロエタン (mg/)	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3	3
	1.1.2-トリクロロエタン (mg/)	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	0.06
	1.3-ジクロロプロペン (mg/)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02
	チウラム (mg/)	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	0.06
	シマジン (mg/)	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	0.03
	チオベンカルブ (mg/)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.2
	ベンゼン (mg/)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.1
	セレン及びその化合物 (mg/)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.1
	ホウ素及びその化合物 (mg/)	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	10
	フッ素及びその化合物 (mg/)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	8
アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物 (mg/)	24	47	11	33	58	9	100	
その他	ダイオキシン類 (pg-TEQ/)	0.00064	0.00081	0.00047	0.00070	0.00077	0.00063	10
	臭気指数	19			20			29

(2) 臭気対策

北野下水処理場から発生する臭気を抑制するため、生物脱臭設備を設置しています。生物脱臭設備などの適切な維持管理を行い、規制基準の適合を確認しました。

敷地境界における臭気指数

施設	測定日				基準値 臭気指数
	H22.4.19	H22.7.14	H22.10.14	H23.1.13	
明神沈砂池脱臭設備	10	< 10	17	< 10	30
第6機械棟沈砂池脱臭設備	< 10	12	17	< 10	27
分譲池上屋脱臭設備	21	27	21	20	27
污泥処理施設脱臭設備	30	20	22	32	35
雨水滞水池脱臭設備	26	26	26	21	27

敷地境界における臭気指数

施設	測定日				基準値
	H22.5.27	H22.8.19	H22.11.25	H23.2.17	
本場施設（測定5箇所）	< 10	< 10	< 10	< 10	13
分場施設（測定4箇所）	< 10	< 10	< 10	< 10	

(3) 騒音及び振動対策

北野下水処理場から発生する騒音及び振動を抑制するため、ポンプ、送風機類などの適切な維持管理を行い、規制基準の適合を確認しました。

騒音・振動

測定年月日	H23.3.2～3			
測定箇所	敷地境界線 1箇所			
測定項目	騒音測定		振動測定	
	測定結果	規制値	測定結果	規制値
測定時間帯	dB(A)	dB(A)	dB(A)	dB(A)
昼間	58	70	< 30	65
夕	55	60	-	-
夜間	51	55	30	60
朝	54	60	-	

(4) 大気汚染対策

焼却炉から排出される排ガスに対して、条例等により様々な規制値が設けられています。焼却炉の適切な運転維持管理を行い、規制基準の適合を確認しました。

1号汚泥焼却炉

測定項目	測定日		規制値
	H22.7.29	H23.1.20	
ばいじん量 (g/m ³ N)	0.006	0.003	0.15
硫黄酸化物 (m ³ N/h)	0.01	0.01	9.7
窒素酸化物 (ppm)	17	10	250
塩化水素 (mg/m ³ N)	< 6	< 5	700
ダイオキシン類	ばい煙 (ng-TEQ m ³ N)	0.0000041	5
	焼却灰 (ng-TEQ/g)	0.00000011	3

2号汚泥焼却炉

測定項目	測定日		規制値
	H22.6.3	H22.11.11	
ばいじん量 (g/m ³ N)	0.003	0.002	0.15
硫黄酸化物 (m ³ N/h)	< 0.004	< 0.003	9.7
窒素酸化物 (ppm)	20	27	250
塩化水素 (mg/m ³ N)	< 6	< 5	700
ダイオキシン類	ばい煙 (ng-TEQ m ³ N)	0.0000024	5
	焼却灰 (ng-TEQ/g)	0.000000084	3

(5) 廃棄物対策

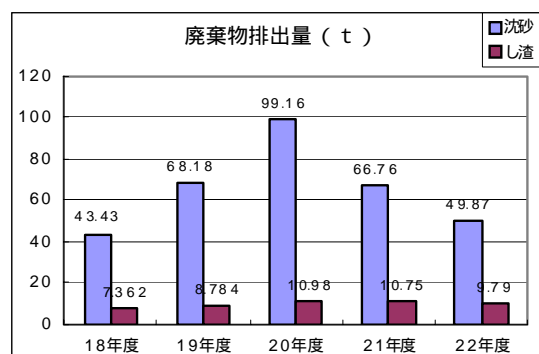
北野下水処理場から発生する廃棄物には沈砂とし渣があり、それぞれ適切に運搬・処理をしています。

平成18年度から22年度の推移

廃棄物排出量変化

沈砂:流入下水の中の砂利・砂などの大きな固形物

し渣:沈砂池で沈まなかったトイレトーパー、ビニール片などの固形物



第2章 北野衛生処理センター 事業概要



<< 投入室全景 >>

1 施設のあらまし

当センターは、昭和 33 年に建設以来、八王子市の人口の増大に伴う処理量の増加に対応するため施設を増やして対応してきました。下水道の普及により処理量が減少した現在は、し尿処理の効率化のため改良工事を終えた第一処理場のみで運転しています。

処理能力 230 kℓ / 日 (115 kℓ / 日 × 2 系列)
平成 16 年 10 月より 1 系列休止

敷地面積 13,694 m²

建築面積 5,798 m²

竣 工 昭和 57 年 8 月 (更新 平成 14 年 4 月)

処理方式 標準脱窒素処理方式(P26 参照) + 凝集沈殿 + オゾン + 砂ろ過



【処理施設】

受入（投入）室



バキューム車で、各家庭から集められたし尿等は、投入室内の沈砂槽で受け入れます。ここで、し尿等に含まれた夾雑物¹を沈殿させます。

前処理設備



受け入れたし尿等は、一度受入槽に貯められ、この前処理設備にかけられます。ここでは大きなごみであるし渣²を取り除きます。

生物処理設備



前処理を行った後、貯留槽に貯められ、24時間定量的に生物処理槽に送られます。ここでは、し尿等の汚れを好気性微生物に食べてもらいます。微生物の活動を活発化させるために空気を送っています。

- 1 夾雑物：搬入されたし尿・浄化槽汚泥には砂利・砂のほかさまざまな固形物が混ざっていますこれを夾雑物といいます。
- 2 し渣：搬入されたし尿・浄化槽汚泥中から夾雑物を除去した後も髪の毛やトイレットペーパー、ビニール片などが混入しています。これら固形物を分離除去したものを「し渣」といい、圧縮して水分を減らした後、場外に搬出・処理しています。

凝集沈澱池



凝集沈澱池では、薬品（塩化アルミニウム、凝沈ポリマー）を加えて処理水中の小さなごみ（懸濁物質）を凝集して、沈みやすくし、固体と液体を分離させます。

オゾン処理設備



ここで発生させたオゾン³は、反応槽に送られ凝集沈殿処理水と接触させて、CODや色度を酸化分解すると共に、処理水の滅菌にも利用しています。

脱臭設備

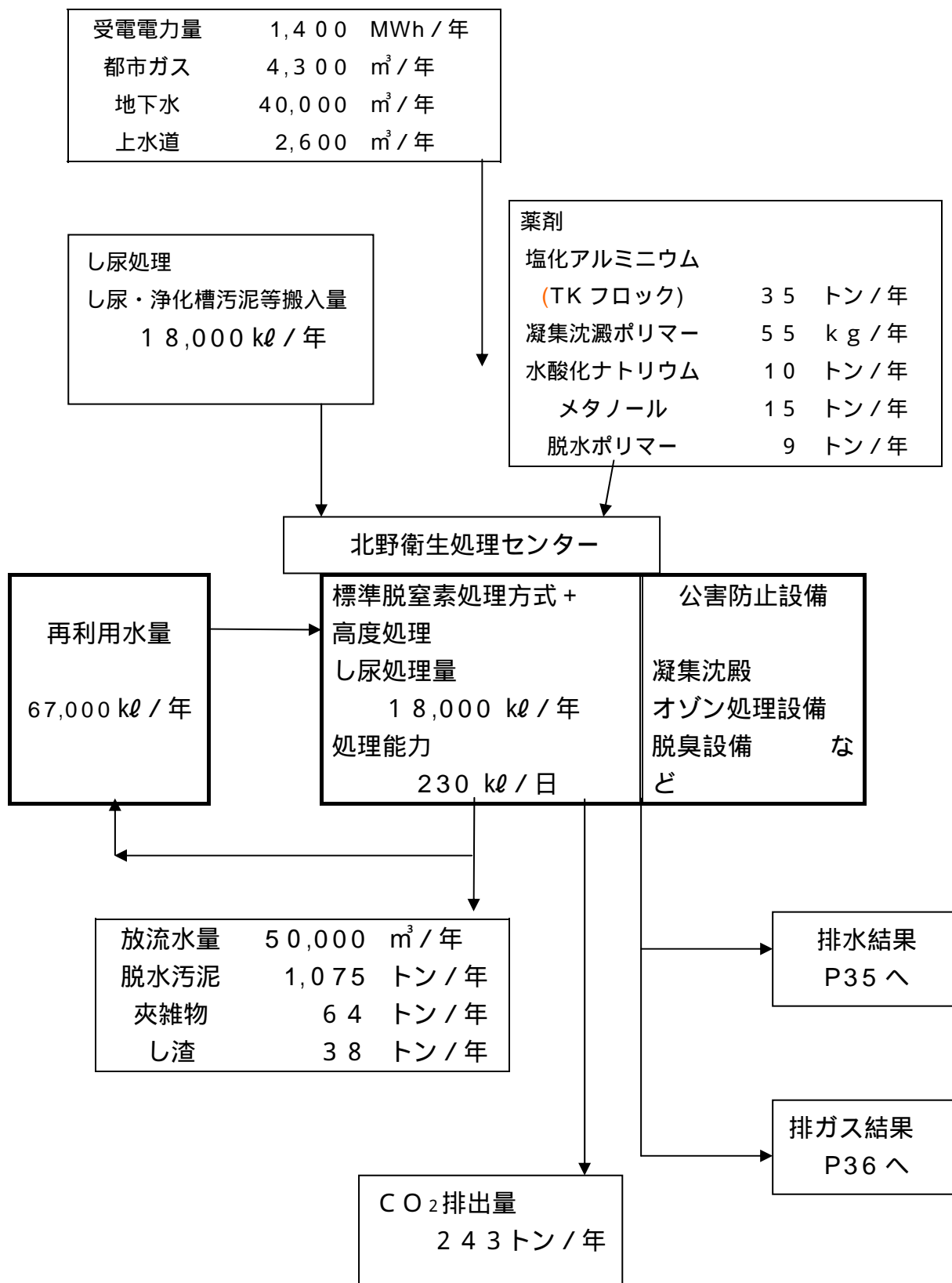


処理過程でし尿等から発生する臭気は、臭いの強さにより中濃度臭気と低濃度臭気に分け効率的に脱臭処理を行っています。
中濃度臭気は腐植質脱臭方式、低濃度臭気は活性炭を使用しています。

3 オゾン：オゾン（ O_3 ）は不安定な物質で自然に分解して酸素（ O_2 ）に変化します。その際に生ずる原子状態の酸素（ O ）が強力な酸化作用を示します。

2 環境負荷

(1) 平成22年度の物質収支



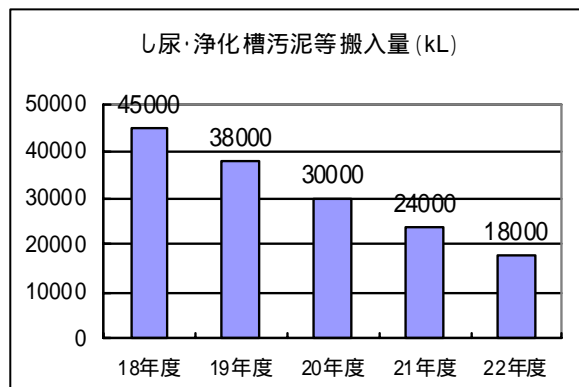
(2) 平成18年度から22年度の推移

平成14年度に主要設備を更新し、現在の処理施設のみで汚水処理を行うようになった時点と比べて、平成22年度のし尿、浄化槽汚泥等の搬入量は半減しています。搬入量の減少に対応するため、平成16年10月から2系統ある処理ラインのうち1系統のみの運転としています。

以下は平成18年度から22年度までの5年間の推移です。

し尿・浄化槽汚泥等搬入量変化

公共下水道の整備が進んだことに伴い搬入量は毎年10%程度減少していましたが、平成22年度は前年度より25%の減少となりました。

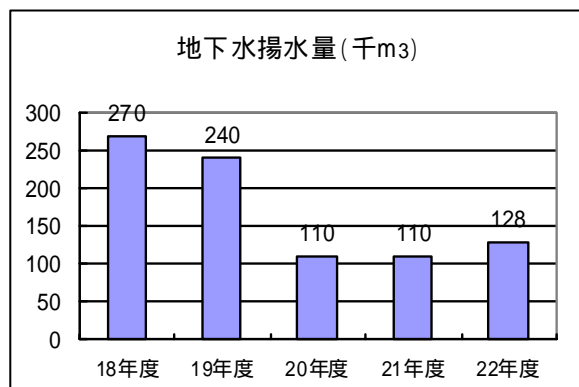


地下水揚水量変化

標準脱窒素処理工程での希釈水として使用しています。

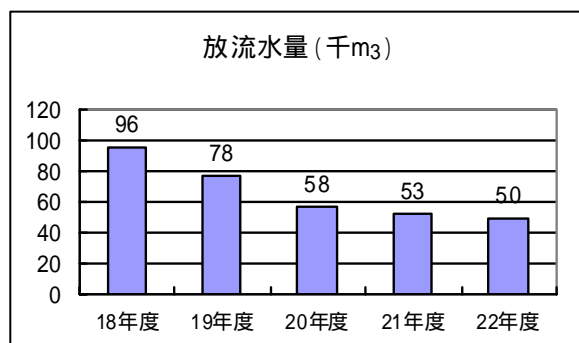
平成20年度にポンプ能力の適正化を図りました。

22年度はプラント用水としての使用量が増加しました。



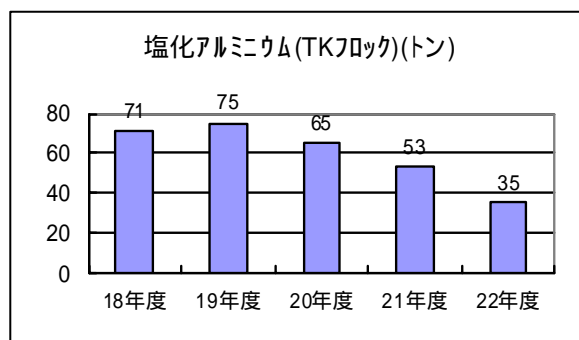
放流量変化

処理量の減少に加え、処理水を希釈水として再利用するようになったため、減少傾向となりました。



塩化アルミニウム (TKフロック) 使用量変化

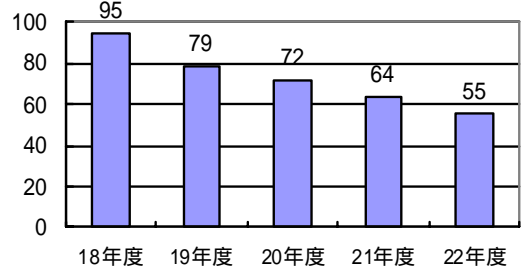
凝集沈殿処理の凝集剤として使用しています。処理量の減少に伴い減少傾向となりました。



凝集沈殿ポリマー使用量変化

凝集沈殿処理の凝集剤として使用しています。平成 18 年度まではほぼ横ばいでしたが、平成 19 年度より処理量の減少に伴い、使用量も減少しました。

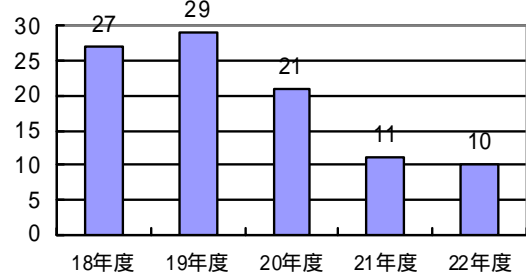
凝集沈殿ポリマー(高分子凝集剤)(kg)



水酸化ナトリウム使用量変化

凝集沈殿処理での中和用として使用しています。平成 19 年まで中和での使用が増える傾向が続きましたが、平成 20 年度より処理量の減少もあり減少傾向となりました。

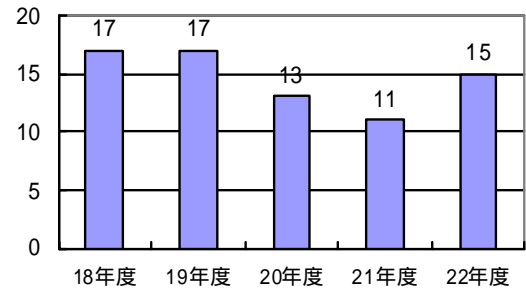
20%水酸化ナトリウム(苛性ソーダ)使用量(トン)



メタノール使用量変化

活性汚泥中の窒素を除去する工程で活性汚泥の養分として使用しています。処理量の減少に伴い使用量も減少傾向でしたが、22 年度は負荷量(活性汚泥の養分)が減少し過ぎたため増加となりました。

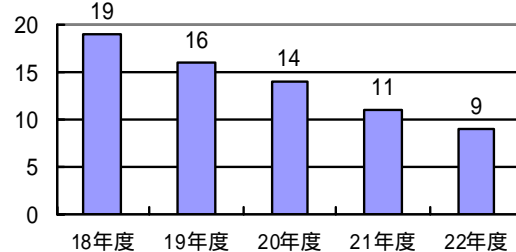
48%メタノール使用量(トン)



脱水ポリマー使用量変化

生物処理後の汚泥を脱水するために用いる高分子凝集剤です。処理量の減少に伴い使用量も減少しました。

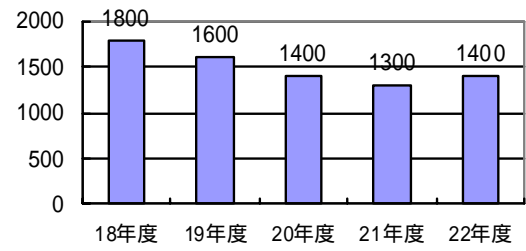
20%脱水ポリマー(高分子凝集剤)(トン)



電気使用量変化

曝気プロワやポンプ等の動力源として使用しており、処理量の減少に伴い使用量も減少していましたが、組織改正により執務室をセンター建物とする職員が27名から61名と増えたため増加となりました。

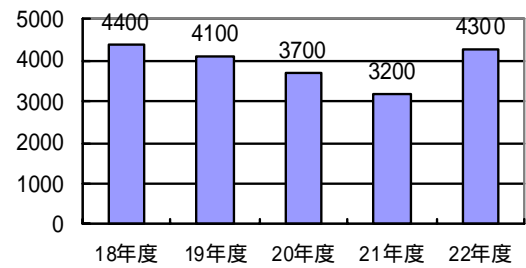
電力使用量 (MWh)



都市ガス使用量変化

給湯設備に使用しており、平成18年度以降減少傾向となっていました。平成22年度より組織が改正され職員数が61名となったため使用量が増加しました。

ガス使用量(m³)

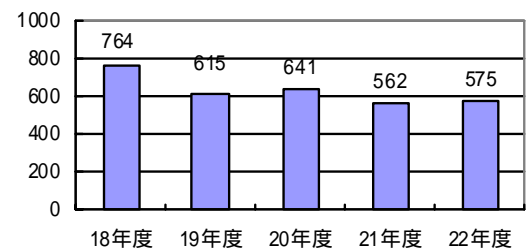


(3) 地球温暖化対策

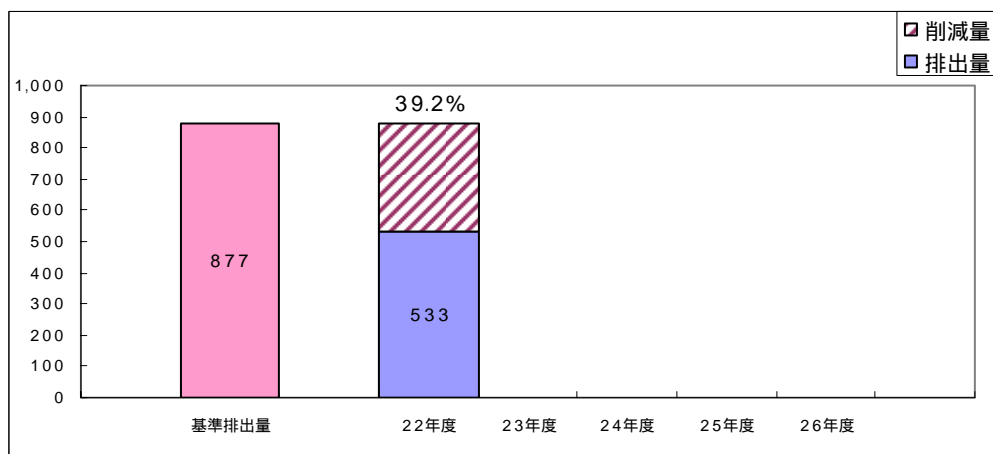
CO₂排出量変化

処理量が減少傾向のため、し尿処理に係るCO₂排出量は減少傾向にあります。

CO₂排出量(トンCO₂)



総量削減義務の履行状況 (北野衛生処理センター分)

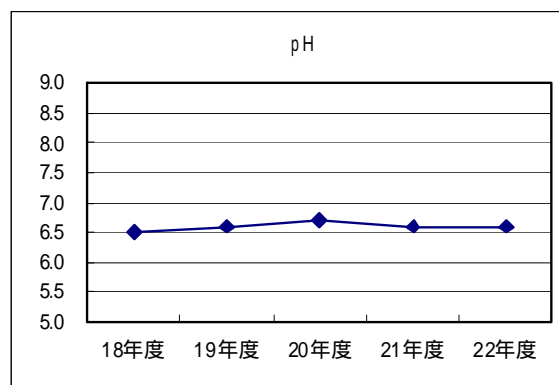


3 環境対策

(1) 河川環境対策 放流水質

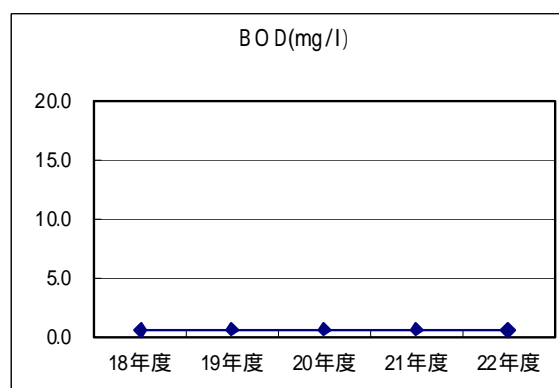
pH (水素イオン濃度)

処理水はほぼ中性であり、水質汚濁防止法の基準値(5.8以上8.6以下)に適合しています。



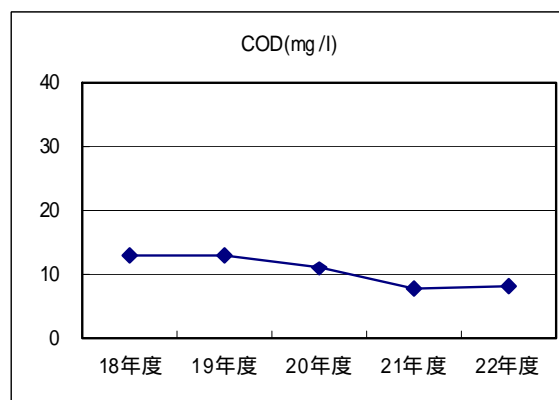
BOD(生物化学的酸素要求量)

廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法)の排水基準(20mg/l)と比べて大変低く、人為的汚濁のないきれいな河川のBODの値と同程度の値で推移しました。



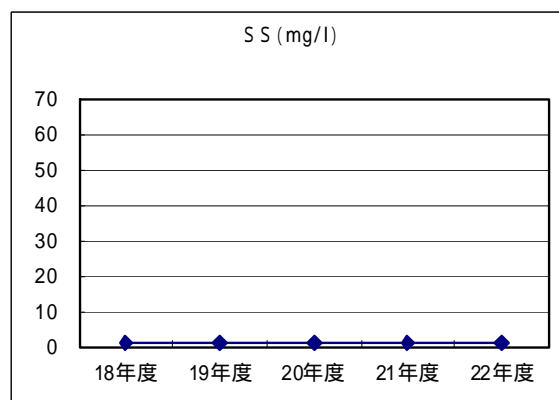
COD(化学的酸素要求量)

凝集沈殿処理やオゾン処理などの高度処理工程で除去しています。



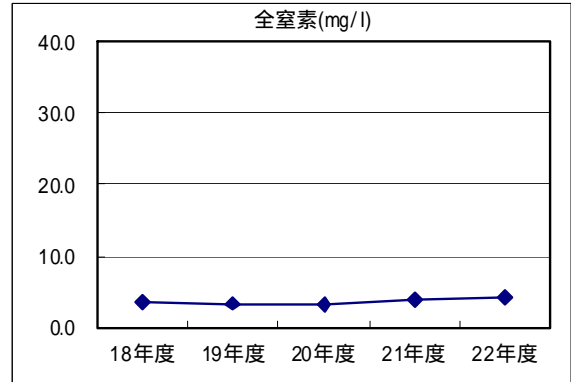
SS(浮遊物質)

凝集沈殿処理や砂ろ過処理など高度処理によりSS分の除去を行っており、年平均値で1mg/l以下と廃掃法の排水基準値(70mg/l)よりはるかに低い値で推移しました。



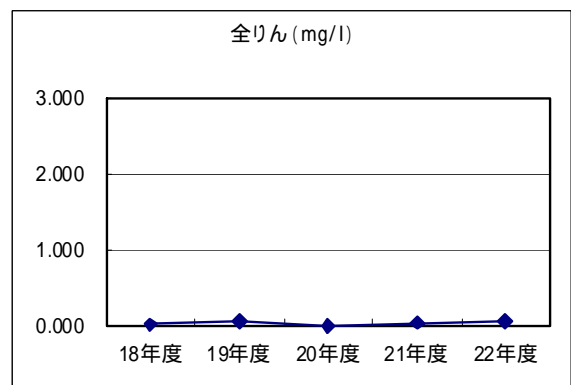
全窒素

富栄養化(巻末に用語解説)の原因となる窒素化合物の値を示しています。
標準脱窒素処理により窒素成分を除去しており、処理水中の全窒素の値は排水基準(40mg/l)の10分の1以下で推移しました。



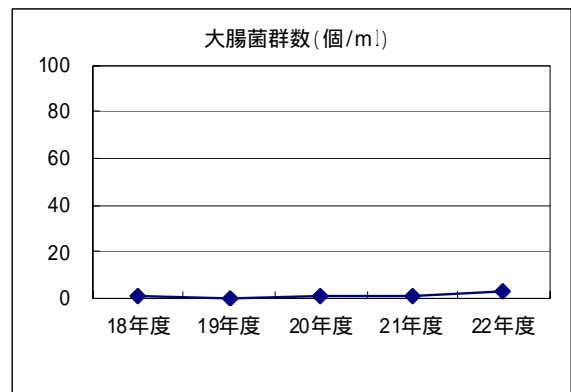
全磷(全りん)

富栄養化の原因となる磷化合物の値を示しています。
凝集沈殿処理により除去しており、処理水濃度は排水基準(3mg/l)の100分の1程度で推移しました。



大腸菌群数

高度処理の工程で、オゾン処理による滅菌を行った後、河川に排水しており、排水基準(3,000個/m³)に比べ桁台の値で推移しました。



放流水 水質データ

項目		平均	最大	最少	基準値
生活環境項目	水素イオン濃度 (pH値)	6.6	8.3	6.2	5.8以上8.6以下
	BOD生物化学的酸素要求量 (mg/)	0.6	1.2	<0.5	20
	COD化学的酸素要求量 (mg/)	8.2	12	6.2	
	SS浮遊物質 (mg/)	1	1	<1	70
	ノルマルヘキサン 抽出物質含有量 動植物油類 (mg/)	<0.5	<0.5	<0.5	30
	フェノール類含有量 (mg/)	<0.2	<0.2	<0.2	5
	銅含有量 (mg/)	<0.01	<0.01	<0.01	3
	亜鉛含有量 (mg/)	0.011	0.018	0.004	2
	溶解性鉄含有量 (mg/)	<0.1	<0.1	<0.1	10
	溶解性マンガン含有量 (mg/)	<0.1	<0.1	<0.1	10
	クロム含有量 (mg/)	<0.1	<0.1	<0.1	2
	大腸菌群数 (個/cm ³)	3	40	0	3000
	全窒素 (mg/)	4.1	9.1	1.6	30
	全リン (mg/)	0.067	0.286	0.006	3.0
健康項目	カドミウム及びその化合物 (mg/)	<0.01	<0.01	<0.01	0.1
	シアン化合物 (mg/)	<0.1	<0.1	<0.1	1
	有機リン化合物 (mg/)	<0.1	<0.1	<0.1	1
	鉛及びその化合物 (mg/)	<0.005	<0.005	<0.005	0.1
	六価クロム及びその化合物 (mg/)	<0.02	<0.02	<0.02	0.5
	ヒ素及びその化合物 (mg/)	<0.005	<0.005	<0.005	0.1
	総水銀 (mg/)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.005
	アルキル水銀化合物 (mg/)	不検出	不検出	不検出	不検出
	ポリ塩化ビフェニル (mg/)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.003
	トリクロロエチレン (mg/)	<0.002	<0.002	<0.002	0.3
	テトラクロロエチレン (mg/)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.1
	ジクロロエタン (mg/)	<0.002	<0.002	<0.002	0.2
	四塩化炭素 (mg/)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.02
	1,2-ジクロロエタン (mg/)	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.04
1,1-ジクロロエタン (mg/)	<0.002	<0.002	<0.002	0.2	

放流水 水質データ(その2)

項目		平均	最大	最少	基準値
健康項目	シス1.2-ジクロロエチレン (mg/)	<0.004	<0.004	<0.004	0.4
	1.1.1-トリクロロエタン (mg/)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	3
	1.1.2-トリクロロエタン (mg/)	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.06
	1.3-ジクロロプロペン (mg/)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.02
	チウラム (mg/)	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.06
	シマジン (mg/)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.03
	チオベンカルブ (mg/)	<0.002	<0.002	<0.002	0.2
	ベンゼン (mg/)	<0.001	<0.001	<0.001	0.1
	セレン及びその化合物 (mg/)	<0.002	<0.002	<0.002	0.1
	ホウ素及びその化合物 (mg/)	<0.02	<0.02	<0.02	10
	フッ素及びその化合物 (mg/)	<0.1	<0.1	<0.1	8

(2) 臭気対策

施設内で発生する悪臭物質を含むガスは、受入槽、貯留槽などの高濃度臭気、活性汚泥槽などの中濃度臭気、投入室などの低濃度臭気の3系統に区分し、それぞれの系統別に、高濃度臭気は生物脱臭、中濃度臭気は腐植質脱臭剤吸着、低濃度臭気は活性炭吸着により処理を行っています。

臭気測定結果

低濃度脱臭設備

項目			測定日		基準値 (排出口)	
			H22.7.20	H23.1.21		
臭気指数			-	19	12	30
悪臭物質	アンモニア	ppm	<1.6	<1.6	-	
	メチルメルカプタン	ppm	<0.0002	<0.0002	-	
	硫化水素	ppm	<0.001	0.038	-	
	硫化メチル	ppm	<0.001	<0.001	-	
	トリメチルアミン	ppm	<0.001	<0.001	-	

中濃度脱臭設備

項目			測定日		基準値 (排出口)	
			H22.7.20	H23.1.21		
臭気指数			-	25	12	30
悪臭物質	アンモニア	ppm	<1.6	<1.6	-	
	メチルメルカプタン	ppm	<0.0002	<0.0002	-	
	硫化水素	ppm	<0.001	<0.001	-	
	硫化メチル	ppm	<0.001	<0.001	-	
	トリメチルアミン	ppm	<0.001	<0.001	-	

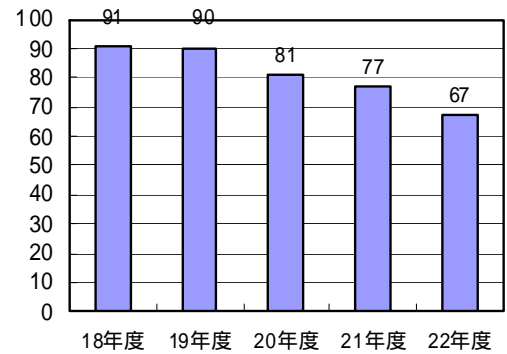
4 資源の有効利用

北野衛生処理センターでは、処理水を再利用しています。また、処理により発生した脱水汚泥は、北野下水処理場へ搬出し、下水処理場と同様にセメント原料へと有効利用しています。

再利用水量変化

汚水の希釈水として利用している再利用水も、処理量の減少により減少しています。

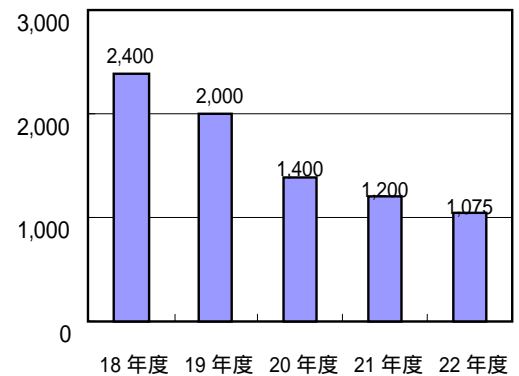
再利用使用水量(千トン)



脱水汚泥量変化

施年と原料として使用している脱水汚泥量も、処理量の減少に伴って減少しました。

脱水汚泥量(トン)



<< ホテイアオイの花 >>

第3章 私たちの環境配慮の取組み



<< 処理水とクレソン >>

八王子市環境基本計画の基本理念

「一人ひとりが環境について考え、その保全、回復及び創造に積極的に取り組み、環境負荷の少ない、人と自然とが共生できる社会をつくる。」

1 環境保全への取り組み

(1) 環境に配慮した事業活動

事業活動における環境への影響を洗い出し、汚染の予防に努めるとともに、環境負荷を低減するため適正な維持管理を行います。

(2) 河川への負荷低減

放流水の適切な水質管理のもとで河川への影響を少なくするよう努めています。

(3) 地球温暖化防止

温室効果ガス(巻末に用語解説)の排出削減に貢献していきます。

(4) 省エネルギーの推進

燃料資源を有効利用するため、エネルギーの使用の合理化を進めていきます。

(5) 資源の有効利用

焼却灰をセメント原料への有効利用に努めています。

(6) 地域との共存

地元住民との協議会を開催し、環境情報の公開や処理場内の美化を推進し、周辺環境との調和を図っていきます。



2 環境負荷を減らす取組み

環境にやさしい「八王子市役所エコアクションプラン」(八王子市地球温暖化対策実行計画) (巻末に用語解説) を平成17年3月に策定し、また平成18年度には「八王子市環境マネジメントシステム」(LAS-E) (巻末に用語解説) の導入に伴い、施設内の事業活動における環境配慮の推進に努めているほか、関連する事業者に対しても環境に配慮した取組みを要請しました。

取組みの柱

(1) 地球温暖化対策の推進

施設の効率的な運転管理に努め、事務事業活動に伴う二酸化炭素等の温室効果ガス(巻末に用語解説)の排出量の削減に努めました。

(2) 環境に配慮した物品調達の推進

グリーン購入法の施行を踏まえ、八王子市グリーン調達方針(巻末に用語解説)に基づき環境負荷の少ない物品調達を推進しました。

(3) 廃棄物の減量とリサイクルの推進、ごみ減量や資源化を推進するために、ごみの発生抑制から再利用、リサイクルの取組みを推進しました。

具体的な事務室での取組み

【省資源活動】

両面コピー、裏面コピー、縮小コピーなど、紙の使用量の削減に努め、使用後の紙ごみのリサイクルをはじめ、資源ごみの分別を徹底しました。

【省エネルギー活動】

昼休みの消灯、廊下照明等の不必要時の消灯、空調設備の設定温度(夏季:28 冬季:20)を徹底し、節電に取組みました。



< 緑のカーテン >



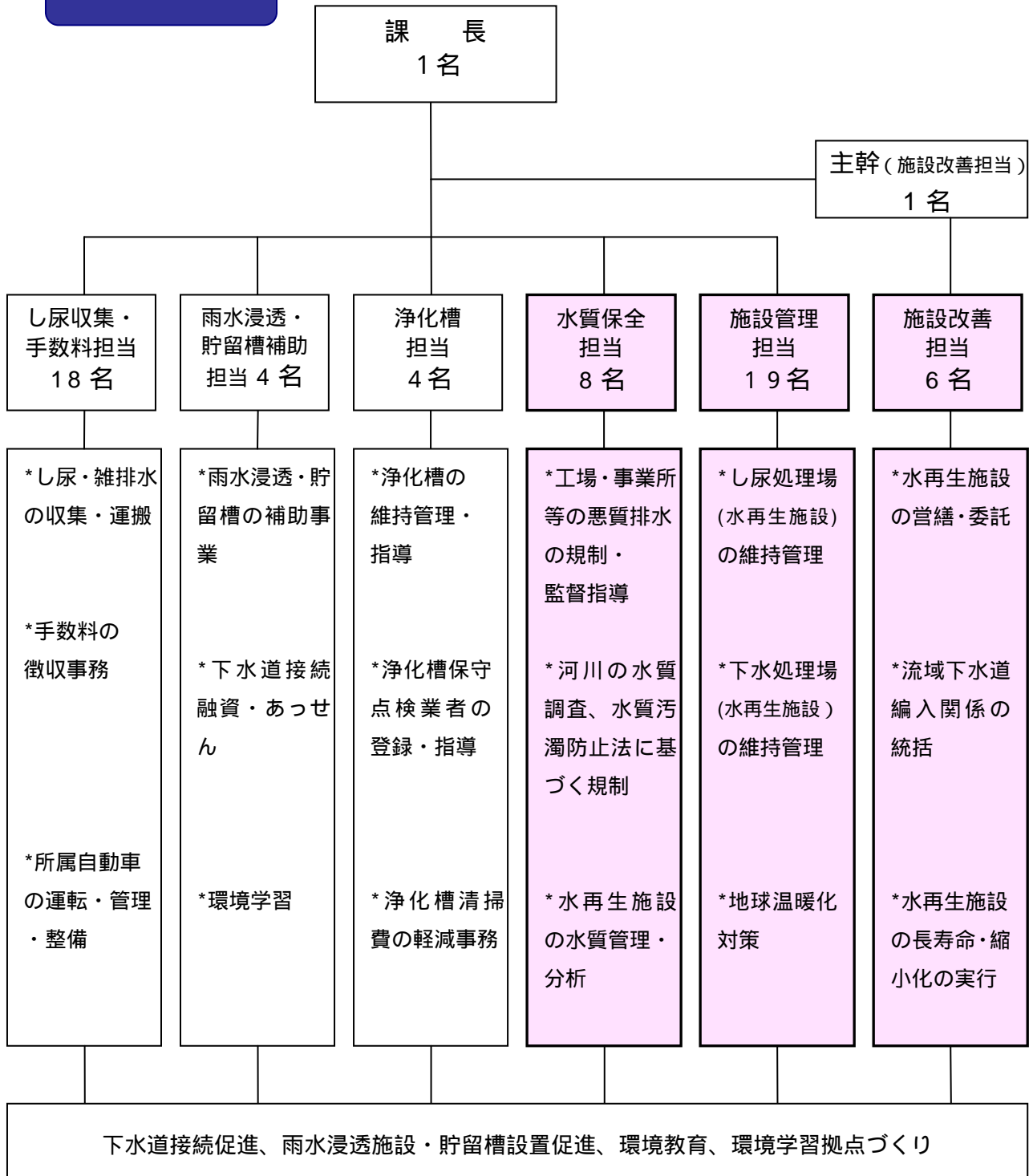
< 資源回収ボックス >

3 私たちの組織

水循環部水再生課は、課長をトップに職員61人、委託先従業員41人、合計102人で構成されています。

再生処理施設（下水処理場・し尿処理場）担当のほかに、し尿収集、浄化槽指導、河川等の水質保全、下水道接続促進、浸透柵設置補助等の事業も行っています。

水再生課組織図



4 安全衛生などの取組み

(1) 安全及び運営管理活動

環境への負荷の削減とともに、毒劇物等の管理及び取扱いに係わる教育・訓練などの活動を継続的に行っています。

毒劇物等管理担当者、特定化学物質等作業主任者、安全管理者、衛生管理者、技術管理者を選任し、それぞれの担当者の役割を明確にするとともに定期のパトロールを実施しています。

安全週間・衛生週間等に会議・講習会を開催しています。

酸素欠乏症や感染症、熱傷・薬傷防止の基礎知識を学び、災害防止に努めています。安全を先取りする職場環境を目指し、リスクアセスメントの作成に向けた取組みも始めています。

(2) 施設の維持管理に関する教育

施設の維持管理に関する知識や技術、技能を身に付けるため、新任時に下記の教育を実施しています。

使用する原材料等の危険性又は有害性及びこれらの取扱い方法に関すること。

空気呼吸器・酸素濃度測定器や保護具の性能および取扱い方法に関すること。

作業標準書による作業手順および作業開始時の点検に関すること。

自主防災計画・緊急連絡体制表などによる事故時等における応急措置及び退避に関すること。



< 空気呼吸器の装着訓練 >

(3) 職場安全衛生会議

水再生課では職員の安全と衛生を確保し維持するために、職場安全衛生会議を毎月開催しています。

安全対策の状況

毎年、安全衛生事業計画を立て、安全対策に通年で取り組んでいますが、特に安全週間・衛生週間等には強化週間としての取組みを行い、日々の安全については危険予知活動・事故事例の掲出などを行っています。

(4) 無事故無災害運動

再生課では、平日、安全朝礼を行っています。加えて毎週月曜日には安全スローガンの唱和を行い、安全意識の啓発に努めています。

無事故・無災害記録は以下のとおりです。(平成 23 年 3 月 31 日現在)

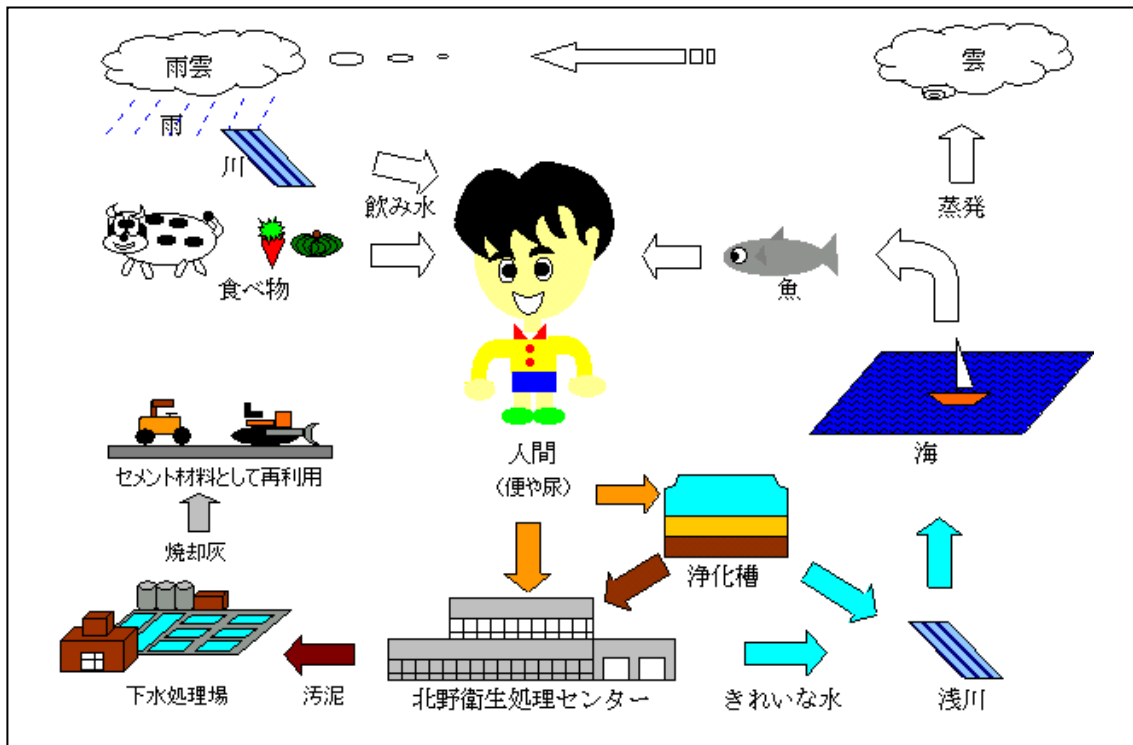
無事故達成日数 253日

無災害達成日数 121日



<<ねじり草>>

第4章 コミュニケーション



上の図は北野衛生処理センターのホームページの一部です。

人間の生命活動から発生する便や尿を周辺環境に配慮しながら、きれいな水と汚泥にして、きれいな水は浅川に放流して自然に還元すると共に発生した汚泥はセメント材料として再利用するなど、地球環境の中で循環させるお手伝いをしている当センターの役割を表しています。

1 環境情報の公開

(1) インターネットにホームページを開設しています。

北野下水処理場

<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisetsu/kankyo/007779.html>

北野衛生処理センター

<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisetsu/kankyo/kitanoeiseishori/index.html>

(2) 連絡協議会の開催

年4回、地域住民代表と市により構成される「北野清掃施設・下水施設関係町会連絡協議会」を開催し、工場等の操業状況や各種測定結果などを報告しています。

連絡協議会委員の構成

町会関係者	:	15名
八王子市	:	4名
合計	:	19名



< 協議会の様子 >

2 寄せられた意見、要望

下水処理場・処理センターに対する意見や要望を受けるとすぐに調査などの対応に入ります。

種類	件数	主な内容	対応
意見(苦情)	0		
意見(感謝)	0		
要望	0		
その他	0		

平成22年度は、意見(苦情)、意見(感謝)、要望等はありませんでした。

3 施設の見学

北野下水処理場と衛生処理センターでは、施設見学を受けつけています。

施設見学ご希望の方は、

【施設見学 連絡先】

八王子市水循環部水再生課（再生処理施設管理担当）

TEL 042 - 642 - 1500

FAX 042 - 644 - 2411

平成 22 年度 施設見学者数

	一 般	小中学校
人 数	88 名	805 名 (10 校)

見学には説明者がついてご案内し、質問にも応じています。所要時間は約 1 時間です。



< 市民の皆さんへ施設概要を説明 >



< 施設見学の様子 >

4 環境教育

(1) あったかホール祭

水循環の環境学習の取組みの一つとして、あったかホール祭りでの施設見学会を実施し、17名の方に参加していただきました。見学会後の金魚すくいには、たくさんのちびっ子が参加してくれました。



< 金魚すくいのようす >

(2) 出前講座

水循環の環境学習の取組みの一つとして、市内2ヶ所の学童保育所での出前授業「水のお話会 - よごれた水のゆくえ」には、100名の児童の皆さんが集まってくれました。

また、講師を招き、下水道の出前講座を行いました。



< 出前講座のようす >

5 社会的活動

緑化の取組み

緩衝緑地には数多くの樹木が植えられており、必要に応じて樹木の剪定などを行っています。



敷地内の緑化

敷地内も数多くの樹木や芝が植えられており管理しています。



敷地外の環境整備

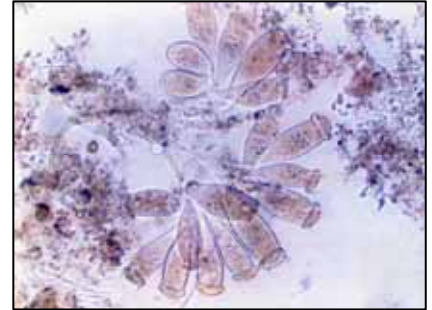
当センターから出る処理水を放流している北野排水樋管まわりの浅川土手及び河川敷の草刈などの環境整備も行っています。



用語解説

標準活性汚泥法 活性汚泥を用いた好気性の汚水処理方法

活性汚泥 : 好気性微生物を多量に含んだドロのことをいいます。活性汚泥と下水の混合液に空気を混入することにより、バクテリアと原生動物及び後生動物などの微生物が、水中の汚物を食物とした繁殖作用を活発に行うことで、汚物はふわふわした海綿状になり沈殿しやすくなります。沈殿しやすい塊（フロック）に変える作用は反応タンク（エアレーションタンク）で行われ、フロックを取り除く作用は最終沈殿池で行われます。



（原生動物 エピスティリス）

標準脱窒素処理方式 : 硝化菌と脱窒菌という自然界に広く分布する微生物を利用して、し尿中の窒素化合物を最終的に窒素ガスに転換する処理技術です。排出水中の窒素化合物を除去することにより、湖沼などの富栄養化を防止しています。

温室効果ガス : 大気中に放出された二酸化炭素（ CO_2 ）などの微量な気体は太陽から届く日射は通しますが、日射を受けて温度が上昇した地球が放出する赤外線を吸収するため、それらの気体が地球を温室のように暖めています。この温室効果をもたらす気体を温室効果ガスといいます。この温室効果ガスには二酸化炭素、水蒸気、メタン、ハロカーボン類（フロン、ハロン類）、一酸化二窒素、六フッ化硫黄、オゾンなどがあります。近年、人間活動の拡大に伴い二酸化炭素の排出量が増加し、それに伴い大気中の二酸化炭素の濃度が高くなっています。1990年以降、年平均気温が上昇して、過去100年当り世界で0.7、日本で1.0の割合で上昇しています。二酸化炭素など温室効果ガスの増加で起こる温暖化は森林破壊、砂漠化、異常気象、豪雨や干ばつ、海面上昇などをもたらし、マラリアの発生、熱中症の増加など健康にも影響を及ぼしています。

ポリマー : 高分子のことです。し尿処理の過程では凝集剤として凝集沈殿処理や汚泥脱水処理に使用しています。

富栄養化 : 水中の窒素やリンなどの栄養塩が増えることです。その結果、プランクトン等水生生物の増殖が進みます。富栄養化により漁業被害が起きたり、異臭が発生するなどの弊害があります。東京湾では夏季に赤潮が発生しています。

TEQ(毒性等量) : ダイオキシン類の毒性の評価を表すときに用います。ダイオキシン類の中でも最も毒性の強い2,3,7,8-TCDDの毒性を1として他のダイオキシン類の強さを換算した単位のことです。(ng-ナノグラム-10億分の1グラム、pg-ピコグラム-1兆分の1グラム)

八王子市役所エコアクションプラン(八王子市地球温暖化対策実行計画)

: 「地球温暖化対策の推進に関する法律」を受け、地方公共団体の責務として八王子市の事務事業活動によって排出される温室効果ガスの排出を効果的に抑えることにより、地球温暖化対策を推進する目的で計画されたものです。この計画は、ごみの発生抑制から再利用・リサイクルの取り組みを進める廃棄物対策の推進、環境に配慮した物品調達(グリーン調達)の推進、温室効果ガス排出量を抑える地球温暖化対策の推進の3つの柱から成っています。

八王子市環境マネジメントシステム

: 事業活動における環境に配慮した取組みを、目標を立てて実行し、その内容について点検・見直し・改善という一連の流れを継続的に行っていく仕組みのことです。八王子市では、環境自治体会議が制定した規格「環境自治体スタンダード」(略称「LAS-E」)を環境マネジメントシステムとして導入しました。

グリーン調達 : 購入の必要性を十分に考え、できるだけ環境への負荷が少ない製品やサービスを調達することです。

八王子市グリーン調達方針 : 八王子市エコアクションプラン及び国等による「環境物品の調達等に関する法律」に基づき、八王子市における環境負荷の少ない物品及び役務の優先的な購入及び借り上げを推進するために基本的事項を定めた方針です。

*** 編集後記 ***

報告書の内容は、図やグラフを用いてわかりやすくなるよう努めました。また、専門用語もできるだけ少なくしたつもりですが、それでも使用する専門用語には用語解説をつけるようにしました。

皆様には率直なご意見をお聞かせいただき、一層充実した環境報告書にしていきたいと考えております。

知らないことが、いっぱい！

北野下水処理場見学のご案内

下水処理場から見た驚きの「水の世界！」

下水処理場の仕組みと「水の大切さ」の学習・発見の場として、ご活用してください。

トイレ・台所・風呂・洗濯などの汚水は、どのようにしてきれいになっているのでしょうか？

* 一番の活躍は「微生物」です。

八王子の水道水は、どこからきているのでしょうか？

* 77%が市外の川の水です。



下水道は、衛生的な町、浸水の少ない町、地球環境を守るため、24時間働いています。

きれいに処理された水は、川に戻します。そして、海・水蒸気・雨・・・これが「水の循環」です。

水はとっても大切なんだね！

日本人は一人一日約250リットル使うけど、世界には20リットルくらいで生活している人たちもいます！

地球表面の約70%は海ですが、人間が飲んだりして使える水は0.01%くらいです。



ストップ！ やめましょう！

- ・歯みがきやシャワーの時、水道の出しっぱなし。
- ・生ゴミ・天ぷら油などを下水に流す。
- ・雨水ますに、砂やゴミを入れる。

里山、湧水池、きれいな川の復活で、子どもも大人もリフレッシュ！

水循環って、大切だね！

< 見学プログラムの例 >

標準見学時間 45分～60分

会議室にて 約20分

- ・ 下水処理場の役割（DVD上映）
- ・ 微生物の話（パワーポイント）
- ・ 処理水を使った汚水処理の過程の説明（処理水の展示）

下水処理場見学 約25分

広い処理場内で五感を使って、歩いて感じてみてください。

- ・ 汚水の流入槽（沈砂池）
- ・ 微生物を使った汚水処理（反応タンク）
- ・ 消毒設備（塩素混和池）
- ・ 処理水の放流施設（浅川）

小学生の社会科見学、中学生の職場見学、高校・大学生・社会人の環境学習、見学会などに活用されています。ご希望ございましたら、いつでもお問い合わせください。

案 内 図



皆さんからのご意見・ご感想をお寄せください。

本報告書をご覧いただき、お気づきの点やご意見・ご感想などがありましたら、ハガキや封書、ファックス、E-mailで下記までお送りください。

これからの環境報告書作成の参考にさせていただきます。

名 称：八王子市 北野下水処理場 北野衛生処理センター
所 在 地：〒192 - 0906 東京都八王子市北野町5 9 6 番地 3
電 話：042 - 642 - 1500
F A X：042 - 644 - 2411
発 行：平成23年9月 (次回発行予定：平成24年9月)
作 成 者：水循環部水再生課
発行責任者：平賀 源重郎 (水循環部水再生課長)
HP： <http://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisetsu/kankyo/index.html>
E-mail： b103000@city.hachioji.tokyo.jp